



1.2.経営者にとって重要なのがネクタイの結びかた。緩んでこないようにきつめに結ぶことでこのように立体的なシルエットになるのです。3.シャツの手元にはかならず奥さまがお選びになったカフリンクス。これも高橋映治さんスタイル。4.ピカピカにみがかれた靴。黒の紐付き靴にすることで足元がひきしまります。

## 前例や習慣にとらわれない取り組みをする。

私たちはみんないい会社に就職してバリバリと働いているのを見てみると、自分だけが取りのこされた感じで不安だけが大きくなってきていたのです。自分のまわりはバイトしながら音楽している人ばかり、18歳くらいのときはそんな人たちがカッコよく見えたのですが、自分が22〜23歳になってくるとまったくそうは思えなくなっていました。でもおなじ夢を追っている仲間たちの前ではそんなことは口がさけてもいえません。このままいくとマズイと思い、何か手に職をつけないと考え22歳のころから専門学校に通いはじめていたのです。

### ミュージシャンとしての人生は諦める事に

通ったのは、放射線技師の専門学校です。なぜその専門学校を選んだかという父の仕事の影響です。父はもともと鉄鋼関係の会社でサラリーマンとして働いていました。優秀だった父は役員まで出世をしたのですが、友人のつくった会社に社長として誘われて転職をすることになったのです。その会社がいまの仕事をするキッカケになる京橋健診センターという健康診断を扱う会社です。いざとなれば父に頼みこみ会社に入れてもらおうと思っただけです。なにも資格が無ければ入れてもらうのも難しいですが、資格さえあれば入れてもらいやすいのではないかと考えていました。普通は3年くらいで資格が取れるのですが、夜はライブがあり通うことが出来ないのです。資格をとるのに5年かかってしまいました。国家試験に受かったのが27歳のとき、一旦プロデビューしたものの、直後にメンバー間のトラブルがおきました。プロミュージシャンとしての限界を感じていたこと、国家試験に受かったこと、これらのことがすべて重なったことでミュージシャンとしての人生はそこで諦める事になりました。プロデビューのレベルまで出来たことで私の中ではやりきった感がありました。ようやくこれでやめることが出来ると不思議な安堵感を感じたの

をよく憶えています。

就職先は国立がんセンター、それまでのミュージシャン生活とは180度違う世界、放射線技師としての第二の人生がはじまりました。国立がんセンターは東大を出たようなスーパースターが集まりなのですが、その人達がかく面白くないばかりだったので。一緒にいるだけでずいぶん好奇心が刺激されるのです。それまで勉強なんて大嫌いだったので、勉強することがすごく楽しくなりました。手をあげればどんどん任せてくれるような環境で、研究結果を学会で発表したり、がん対策20ヶ年計画という大きなプロジェクトにも参加させてもらえて、それまでの人生とはまるで違った生活を過ごすようになりました。それなりに待遇も良かったのと激務でお金を使う時間が無かったこともあり、3年経つ頃にはそれなりのお金が貯まっていた。それまでの人生で見たことも無いようなお金です。そのお金を見た時になにか儲けたい気持ち芽生えてきました。というのが高校の同級生たちに「売れないミュージシャン」と小馬鹿にされていたのが悔しくて悔しくて、どうしても見返したかったのです。そこで貯めたお金を元手に30歳の時に投資会社を作りました。

### 暴力団を使って私を血眼で探している

最初に投資した案件が大当たりし、そこからカリスマ経営者の人生を歩きはじめました。やる事が次々当たり、飲食店、派遣会社、輸入会社とどんどん拡げていき、いつときはグループ会社が7社ある状態でした。もうこの世の實力、と思いついていたの



すが、とある便利グッズ販売に手を出してから雲行きが少し怪しくなってきました。でもなにか一発当てて取りかえせばいいや、と思っていた頃、インターネット販売が伸びはじめていました。うちも何を売ろう！と思った時に思いついたのがカラーひよこでした。一匹仕入れ値が2円くらいで、アメリカに輸出すれば一匹600円で売れるという話を聞き、これはとんでもなく儲かる！と大量にひよこを仕入れ、立派なホームページをつくり、自動塗装装置も特注し、準備万端になったときに判明したのが、動物は検疫制度があるのでカンタンに輸出入ができない事実でした。しかも飛行機で送るとすごくコストがかかるのでまったく儲からないのです。では船で送ったのですが、船で送ると時間がかかるので、アメリカに着くころにはヒヨコではなく、鶏になってしまうのです。： 八方塞がりです。中止にしたのですが、会社には行き場のないヒヨコたちが走りまわっています。捨てるわけにはいかないし、くさいし、うるさいし、エサ代はかかるしで4重苦。社員には箱につめて毎日ヒヨコを配りにいかせましたが、このカラーひよこで完全に資金ショートを引き起こしてしまいました。

でもそんな事は一切口にも出さず、何でもやりますよ！と今までどおり強気なスタンスだったのですが、あるときインドネシアでの肥料関係の案件があり、現地に行きました。でも現地に行くと普通ではない雰囲気、なにか